

目 次

はじめに 情報処理センター長 田岡 文夫

情報処理センターシステムの更新について 情報処理センター次長 多田 知正

特集 「Apple を選ぶ理由」

iPhone と iPad	音楽科 垣内 幸夫
Macintosh との思い出	体育学科 小松崎 敏
再びのアップルユーザー	理学科 高嶋 隆一

平成 21 年度情報処理センター利用結果

平成 21 年度利用状況
情報処理センター利用授業時間割表、平成 21 年度集中講義など
平成 21 年度情報処理センター利用授業内容
平成 21 年度 I P C NEWS の発行状況
平成 21 年度行事日誌
情報処理センターワークステーション利用者一覧
情報処理センター関連委員会等歴代委員
編集後記

はじめに

情報処理センター長 田岡 文夫

皆様方には、平素より本学情報処理センターの運営にご理解とご協力を頂き、感謝に堪えません。厚く御礼申し上げます。私、本年四月より情報処理センター長を、前任の谷口淳一先生より引き継ぐこととあいなりました。情報処理の技術的側面につきまして知識も経験も乏しく、次長はじめ運営委員、職員の方々のご尽力に大きく依存することとならざるを得ません。皆様方には、宜しくご理解とご支援たまわりますよう、お願い申し上げます。

私は社会科学科で経済学を担当して参りましたが、なかでもマクロ経済学、日本経済論を専門としております。近年、経済と情報は何かにつけて緊密な関係にありますことはいうまでもありません。私も日本経済論研究の一端としてここ 10 数年取り組んで参りましたが、遠隔教育、遠隔医療の経済効果の研究でした。へき地に専門の学校や病院、保健所を設立、運営する代わりに、情報通信システムを導入、これによってサービス提供することの費用と便益を測定する方法と実践の研究を続けて参りました。こうした研究を通して得られた成果の一つは、むろんケースにもよりますが、情報通信システムの便益、威力の予想を超える大きさでした。教育、研究、ビジネス、あらゆる分野の組織で情報通信システムの活用そのものの成果を左右することは夙に知られておりますが、その認識を新たに当センターでの職務に励みたいと考えております。

さて、このたび今年度年報発行の運びとなりました。特集テーマを Apple としております。現在パソコンの主流が Windows であることは間違いありませんが、Mac には以前から根強い支持者がいることはよく知られています。また最近では Windows から Mac に乗り換える向きも徐々に増えてきました。こうした状況を踏まえて、当センターではこのたびのシステムの更新にあわせて新たに MacBook を貸出用 PC として提供することとなりました。また最近の Apple 社は iPhone、iPad といったユニークな機器を発表して話題を集めています。特定企業とその製品をテーマとして取り上げますことに、私どもに抵抗がないわけではありません。しかし本学でも今後これらの Apple 社製品の利用が増えることが予想されますため、当センターと致しましても Apple 社製品のサポートについて積極的に検討することは不可欠であると考えております。そうした次第で本特集の下、本学でふだん Apple 社製品をお使いの先生方にそれぞれのご見解を寄稿頂きました。ご多忙のところご寄稿頂きました先生方には、改めて厚く御礼申し上げます。次第です。

情報処理センターシステムの更新について

情報処理センター次長 多田 知正

旧システムの4年間のレンタル期間が終了したことに伴い、平成22年2月1日に情報処理センターのコンピュータシステムが更新されました。ここでは、簡単に新システムの特徴を紹介します。詳細については、「情報処理センター利用案内—教職員用—」などを参照してください。

1. クライアントパソコン

1.1. Windows パソコン

端末室の Windows パソコンは、見た目はあまり変わっていませんが、CPU が Pentium4 から Core2Duo に変更されるなど、処理速度は大きく向上しています。またディスプレイが17インチから19インチへと少し大きくなりました。1つ1つの文字が大きくなり少し見やすくなっています。また OS は、仕様書では Windows Vista となっていたのですが、昨年秋に Windows7 が発売開始されたのに伴い、OS を急遽 Windows7 に変更しました。導入直前の変更であったため、一部ソフトウェアの対応が遅れたりといったトラブルがありましたが、おかげさまでなんとか最新の OS を提供できることとなりました。



1.2. Mac パソコン

情報処理室の Mac パソコンの CPU が、PowerPC から Intel Core2Duo に変更され、大幅に高速化されました。また、タワー型からディスプレイ一体型となり、机の下のスペースが広がりました。



1.3. マルチメディア編集用パソコン

情報処理室に、マルチメディア処理に特化した高性能パソコンを2台設置しました。このパソコンは他のパソコンと比べてメモリが増設されている他、大型のデュアルディスプレイが接続されており、画像や動画の編集を効率よく行うことができるようになっています。



2. 液晶プロジェクタ増設

端末室2にはこれまで液晶プロジェクタがありませんでしたが、このたび新しく設置しました。端末室2専用のプロジェクタとして利用できる他、端末室1のプロジェクタと同じ画面を映すことができます。これにより端末室1,2の結合利用時に、従来プロジェクタの画面の見難かった後方の席からも画面が見やすくなりました。



3. 貸出用ノートパソコン増大

これまでの貸出用のノートパソコンは、非常に大きく重かったため、持ち運びが大変でしたが、今回薄型で軽いタイプに変更になりました。もちろん処理速度も向上しています。さらに台数も3台増加しました。また今回の更新では、新たにAppleのMacBookが貸出用ノートとして5台導入されました。



4. WWWメールシステム高速化

旧システムではWWWメールシステム(Kuemail)の動作が非常に遅く、利用者のみなさまには大変ご不便をおかけしていました。今回の更新に伴ってメールの保存形式を変更することにより、動作が大幅に高速化されました。

5. 迷惑メール隔離サービス

迷惑メールは近年特に大きな問題となっています。旧システムでも迷惑メールのチェックはおこなっていましたが、迷惑メールであることを示すマークをつけた上でそのまま配信していました。このため受信箱が膨大な迷惑メールで溢れてしまい、振り分けが面倒であるだけでなく、メールシステム自体の動作も遅くなるという問題がありました、この対策として、今回新しい迷惑メール対策装置を導入しました。迷惑メールと判定されたメールはただちに配信されず、特別な領域に隔離されます。隔離されたメールは一定期間が経過すると自動的に削除されるので、利用者の手間は大幅に軽減されました。隔離されたメールの中に必要なメールが含まれる場合は、隔離領域から当該メールを取り出すことも可能です。



6. 新システムの概要

6.1. 端末室のパソコンシステム

Windows のサーバとクライアントからなるシステムでネットワークを通じて管理しています。

(1) パソコンサーバ 3台

○学内約 2000 名規模の利用者に十分対応できる性能です。

機種名：富士通 PRIMERGY RX300 S5

CPU (Intel Xeon E5504(3.20EGHz) × 2 CPU 主記憶容量 (4GB)

HDD 容量 (147GB×1[RAID0]) OS (WindowsServer2008)

○ファイルサーバ:利用者ごとに個人領域 (Z ドライブ) を設定し、個人のファイルを一人 **500MB** まで格納、利用できます。

○認証サーバ:ログイン時利用者の認証を行います。Windows ログイン時にもパスワードを使用します。また利用者が電子メールの場合と ID、パスワードを混乱しないよう、利用者 ID 登録及びパスワード変更は電子メールシステムと連動させ、同じものを使用します。

○復旧用サーバ:各パソコンの HDD 復旧、環境復元をパソコンの電源 ON/OFF まで含めサーバから行います。

(2) クライアントパソコン (Windows 系)

端末室 1 (39 台)、端末室 2 (21 台)、端末室 3 (31 台)、情報処理室 (11 台)

○デュアルコア CPU (3.16GHz)、2GB メモリの高性能、動画編集にも応えられる性能です。画面は液晶 19 インチです。スーパーマルチドライブを全台標準装備し、利用容量の増大にも応えられます。クライアント HDD の一部を作業領域として利用者が一時利用できます。

機種名：富士通 FMV-D5290

CPU (Intel Core2Duo E8500 560 3.16GHz)

主記憶容量 (2GB) HDD 容量 (160GB)

スーパーマルチドライブ (CD-R/RW、DVD±R、DVD±RW、DVD-RAM)、IEEE1394 インターフェース、ヘッドセット装備

○多様なソフトウェアを揃えています。

OS : Windows 7 Professional

WWW ブラウザ : Internet Explorer、Firefox

オフィススイート : Microsoft Office 2007 Professional、OpenOffice.org

プログラム開発環境 : Visual Studio Express Edition、Photran、Cpad

プログラミング言語 : FreePascal、Java2 SDK、Borland C++、Ruby

統計・グラフ : PASW Statistics Base 18、KaleidaGraph4.1J(端末室 1,2)

グラフィック : Adobe Photoshop Elements 7(端末室 1,2)、Adobe Illustrator CS4(端末室 3)、Adobe Photoshop CS4(端末室 3)

WWW ページ作成 : Adobe InDesign CS4(端末室 3)

ビデオ編集 : Adobe Premiere Elements 7(端末室 1,2)

CAD ソフト : JW-CAD、AutoCAD(端末室 3)

ファイル転送、リモートログイン : FFFTP、TeraTerm(SSH 対応)

PDF 閲覧, 作成 : Adobe Reader, Adobe Acrobat 9 Pro(端末室 3)

その他 : LaTeX、Cygwin、VMware Player

- ウィルス対策として Symantec Endpoint Protection を導入し、ファイルの自動検知・駆除を行います。ウィルスデータベースはサーバより常に自動更新されます。
- デジタル及びアナログ動画データの入力、編集が可能です。
- 各端末室に CAI 機能 WING-NET を導入し、教師用パソコン画面の一斉転送が可能です。画面分割で教師用画面を提示しながら子機の操作が独立して行えます。
- 情報処理室の研究用パソコン 11 台には更に専門性の高い下記のソフトが追加されています。うち 2 台はマルチメディア編集用パソコンとして、大容量メモリ (4GB)、大型 (22 インチ) デュアルディスプレイなど、画像、音声、動画等のマルチメディアデータの編集に特化した仕様となっています。

科学計算 (2 台を除く) : Mathematica7、MATLAB

グラフィック : Adobe Illustrator CS4、Adobe Photoshop CS4 Extended

WWW ページ作成 : ホームページビルダー13、Adobe Dreamweaver CS4

WWW コンテンツ作成 : Adobe Flash CS4

WWW グラフィック作成 : Adobe Fireworks CS4

オーディオ編集 : Adobe Soundbooth CS4

ビデオ編集 (2 台のみ) : Adobe Premiere Pro CS4、Adobe After Effects CS4

(3) クライアントパソコン (Macintosh 系) 情報処理室 (5 台)

- 最新で高性能、動画編集にも応えられる性能です。画面は液晶 21.5 インチで大画面です。CD-RW/DVD-R(SuperDrive)を全台標準装備し、利用容量の増大にも応えられます。クライアント HDD の一部を作業領域として利用者が一時利用できます。

機種名 : アップル iMac 21.5 インチ

CPU (Intel Core2Duo 3.06GHz) 主記憶容量 (4GB) HDD 容量 (500GB)

SuperDrive (DVD+R DL/DVD±RW/CD-RW) ヘッドセット装備

- 多様なソフトウェアを揃えています。特にマルチメディア系のソフトウェアが充実しています。

OS (MacOS X)

ブラウザ : Safari、Firefox

オフィススイート : Microsoft Office 2008 for Mac,

グラフィック : Adobe Illustrator CS4、Adobe Photoshop CS4 Extended

WWW ページ作成 : Adobe Dreamweaver CS4

WWW コンテンツ作成 : Adobe Flash CS4

WWW グラフィック作成 : Adobe Fireworks CS4

オーディオ編集 : Adobe Soundbooth CS4

ビデオ編集 : Adobe Premiere Pro CS4、Adobe After Effects CS4、

PDF 作成 : Adobe Acrobat 9 Pro

- ウィルス対策として Symantec AntiVirus for Mac を導入し、ファイルの自動検知・駆除を行います。ウィルスデータベースは常に更新されます。

(4) 端末室の周辺機器

- ネットワーク対応のレーザプリンタ 4台 (端末室1 : 2台、2 : 1台、3 : 1台、)
- ネットワーク対応のカラーレーザプリンタ 3台 (端末室1, 2, 3 : 1台)
- ポストスクリプトレーザプリンタ 1台 (情報処理室)
- ポストスクリプトカラーレーザプリンタ 1台 (情報処理室)
- ネットワーク対応カラーイメージスキャナ 4台 (端末室1, 2, 3 : 1台、情報処理室1台)
- 以下の装置が館内利用可能で、どのパソコンとも接続できます。(館外貸出はできません)
 - ・マルチカードリーダー

(5) Windows ノートパソコン (授業利用貸出し IPC の WWW サイトから予約が必要です) 25台

- 機種名 : 富士通 FMV-S8390
 - CPU (Intel Core2Duo P8700 2.53GHz) 主記憶容量 (2GB) HDD 容量 (160GB)
 - 14.1 インチ液晶ディスプレイ、スーパーマルチドライブ、有線マウス装備
 - OS (Windows7 Professional) 主なソフト (Microsoft Office 2007 Professional)
- 館外の教室での授業以外に、IPC 端末室内で追加パソコンとして利用できます。(IPC 各端末室には無線アクセスポイントを設置しています。)

(6) Mac ノートパソコン (教職員貸出し IPC の WWW サイトから予約が必要です) 5台

- 機種名 : アップル MacBook
 - CPU (Intel Core2Duo 2.26GHz) 主記憶容量 (2GB) HDD 容量 (250GB)
 - 13.3 インチ液晶ディスプレイ
 - OS (MacOS X) 主なソフト (Microsoft Office 2008 for Mac、VMware Fusion)

6.2. 研究用ワークステーション **ews**

○4 回生以上の研究用 UNIX ワークステーションです。

機種名 : Sun 社製 SPARC Enterprise T5410

- CPU (UltraSPARC T2 Plus 1.2GHz) × 2
- 主記憶容量 (16GB) HDD 容量 (584GB) OS (日本語 Solaris10)
- 主なソフト (Wnn8 Server, Fortran、C、Mathematica7、MATLAB7.8)

6.3. ビデオ配信システム

○学内の様々なイベントをビデオで取り込み、Flash 形式でストリーミング配信することができます。

す。同時 100 件のアクセスが可能です。

(1) ビデオ配信サーバ 1台

機種名 : 富士通 PRIMERGY RX300 S5

- CPU (Intel Xeon E5504) × 2
- 主記憶容量 (4GB) HDD 容量 (300GB×4 [RAID5])
- OS (RedHat Enterprise Linux 5) 主なソフト (Adobe Flash Media Interactive Server 3.5)

(2) Live エンコード用パソコン 1台

○学内の様々なイベント会場に持ち込み、ビデオ入力されたものを **Flash** 形式にエンコードし、
LAN でビデオ配信サーバに送りそこからインターネットで学外に配信します。

機種名：富士通 FMV-A8290

CPU (Intel Core2Duo 2.53GHz) 主記憶容量 (4GB) HDD 容量 (80GB)

OS (Windows7 Professional) 主なソフト (Flash Media Live Encoder)

システム更新に関連してお気づきの点がございましたら、IPC までご連絡をお願いいたします。

特集

「Apple を選ぶ理由」

iPhone と iPad

音楽科 垣内 幸夫

1. はじめに

iPhone を使い始めてもうすぐ2年になる。もともと **Vodafone** ⇒**SoftBank** の携帯電話を使用していたので **iPhone** の購入は私にとって必然と思える流れであった。**iPad** についても同様である。**iPhone** に馴染んで **iPhone** が日常となった今、**iPad** を入手し活用するのは時間の問題だった。**iPhone** と **iPad** の操作はほぼ同じである。機能的には異なる点もあるが、私はそれぞれの特性を楽しんでいる。有料・無料のアプリケーションは日々増殖しているが、私にとって必要なものは限られている。特に言っておきたいことは **iPhone** のために購入した有料のアプリが、そのまま **iPad** でも利用できる点である。**Apple** 社の親切な対応に感謝している。いうまでもなく **iPhone** ・ **iPad** は共に **iTunes** と同期させてコンピュータと情報を共有するものである。以下に **iPhone** と **iPad** の順に、私の利用方法を紹介する。

2. iPhone

私が使用している機種は **iPhone3G** の 8GB タイプである。まずは使ってみようと思えば最も安価な機種を購入した（最新の **iPhone 4** は機能が大幅にアップしさらに安価となっている）。購入に踏み切ったのはスケジュール・アドレス帳管理と動画・音楽を持ち歩くためである。インターネットにつないでメールが閲覧できることや多くのアプリケーションが準備されていることも **iPhone** 入手のきっかけとなった。

(1) スケジュール管理

私が日常的に使用しているコンピュータは **Apple** ではなく **Windows** である。そのためスケジュール管理は **Microsoft Office Outlook 2007** で行っており、その情報を **iPhone** と同期させているのだ。スケジュールは基本的にはコンピュータで毎日更新し **iPhone** と同期させている。しかし外出先で更新する場合もある。その時は **iPhone** に新しいスケジュールを入力し、帰宅後にコンピュータと同期させる。**iPhone** は画面が小さいのでスケジュールに関しては月単位での一覧はあまりお奨めできないが、手帳代わりに **iPhone** の中に **Outlook 2007** の情報を持ち歩けるのはとても便利である。

(2) アドレス帳管理

iPhone はもともと携帯電話でもあるので電話帳機能を連絡先(アドレス帳)として管理できる。アドレス帳は **Outlook 2007** にもあるが、私は **iPhone** の連絡先と **Outlook 2007** を同期させていない。その理由は **Outlook 2007** のアドレス帳が過去数十年間の住所録を蓄積したものであり、膨大な情報量となっているためである。**iPhone** は携帯電話であり、そこで必要な情報は日常的に利用する電話帳としての連絡先である。そのため **iPhone** の連絡先は新しく知り合った人の情報をその場で入力し、コンピュータと同期させてバックアップを取ることに限って使用している。海外で知り合った人に関しては、名前と顔を一致させるため **iPhone** で写真を撮らせてもらい連絡先に貼り付けている。この方法で頻繁に会う機会のない中国や韓国の人の名前と顔がわからな

くなるのを防ぐことができる。

(3) インターネットとメール

大学も自宅も無線 LAN の環境にあるので、インターネットの接続が可能である。**iPhone** で **kuemail** を閲覧し必要に応じて返信することもできる。ただしコンピュータと違って画面が小さいので見難いことと、モバイル版の操作が少し面倒なことが課題として残る。それでも随時メールのチェックができるのは便利だ。またインターネットで各サイトを閲覧できるが、やはり画面が小さいことと **iPhone** の容量の関係でコンピュータのように大量の情報を入手するのは難しい。以前、上海師範大学に行ったとき無線 LAN のパスワードを教えてもらって **iPhone** で **kuemail** を毎日チェックしていた。最近は新幹線の中でも BB モバイルポイントによって無料でインターネットが閲覧できるし **kuemail** も可能となっている。外出先でコンピュータがなくても BB モバイルポイントでその恩恵を享受している。

(4) お気に入りのアプリケーション

iPhone 購入以来多くのアプリケーションを試してみたが、自分に合ったもので今も活用しているお気に入りのアプリについて紹介する。

有料のもので重宝しているのは「大辞林」「指さし会話 韓国」「指さし会話 中国」「元号」である。特に「大辞林」はいつも **iPhone** で持ち歩けるため心強い味方となっている。「指さし会話」は画面をタッチすると発音してくれるので語学の学習にもなり楽しめるアプリである。「元号」は飛鳥時代から現在までのすべての元号が即座に検索できるので、私の研究に大いに役立っている。

無料アプリのお気に入りは「天気」「産経新聞」「Skype」「Google Earth」「Zippo」等々。「天気」は **iPhone** にもともとあるアプリで **iPad** にはない。私の **iPhone** では京都・東京・ウィーン・ソウル・上海の天気と気温がリアルタイムでわかるようにセットしてある。そのため自分と世界が直結しているようで楽しい。「産経新聞」は **iPhone** 上で産経新聞の朝刊をいつでも無料で読むことができるアプリである。前述した通り上海師範大学に滞在していた時、学内の無線 LAN のパスワードを教えてもらっていたので、毎日日本での出来事を新聞で読むことができた。ただし **iPhone** の画面が小さく紙面情報の取得に時間のかかる点はとても不便だった。それでも、新聞によって日本と世界の最新情報が入手できるのは、海外にいる者にとっては大変心強い。「産経新聞」は **iPhone** で特にお奨めのアプリである。

私の息子は現在オーストリアのウィーンに留学している。息子も「Skype」を使っており時々ウィーンのカフェから Skype してくる。映像はないがクリアな音で会話ができる。時には私自身がウィーンのカフェにいるような錯覚に陥ることもある。ウェーターの声やカップの音、楽しそうな会話（ドイツ語）を背景に息子と話しができるのも **iPhone** のお陰である。「Google Earth」もまた **iPhone** で使用できる楽しいソフトである。息抜きにお奨めなアプリは「Zippo」である。画面上でライターの蓋を開けて着火するとオイルライター独特の炎が揺らめく。試しに **iPhone** を 360 度回転してみると炎がリアルに反応するので、火傷には十分気をつけてほしい（冗談）。他にも楽しいアプリが沢山あるが、それは個々の **iPhone** ユーザーの楽しみとして残しておくことにする。

(5) 音楽と動画

iPhoneにある「iPod」のアプリによって大量の音楽を持ち歩いて聴くことができる。**Beethoven**の交響曲・協奏曲・ソナタ・弦楽四重奏曲の全集をはじめ、現在研究を展開している東アジアの語り物音楽である義太夫節（日本）・パンソリ（韓国）・評弾（中国）の音源資料がいつでもどこでも聴けるのは、研究遂行のためにも有益である。また語学学習のCDも多く入っている。

動画も同様である。義太夫節・パンソリ・評弾等の映像（研究資料）や、自らの演奏（義太夫節・オーケストラの指揮）の映像を持ち歩くことでコミュニケーションの輪が広がる。昨年3月に上海師範大学で講義を行った際、夏先生に私が義太夫節を演奏している映像を **iPhone** でお見せしたところ、是非「上海師範大学国際芸術祭」で演奏してほしいと請われ、昨年9月に上海での演奏会が実現した。**iPhone** がプレゼンテーションに力を発揮してくれたのである。

3. iPad

私が現在使用している **iPad** は Wi-Fi（無線 LAN）のみの 64GB モデルである。携帯電話事業者と契約する 3G モデルは必要性を感じなかった。これまで **iPhone3G** の 8GB モデルを使用していて、音楽と動画を持ち歩くのに容量が少ないことが気になっていたため、**iPad** は最大容量の機種を選ぶことにした。最初 64GB の **iPad** は 8GB の **iPhone** とはその容量が比べ物にならないかと思っていたが、多くの動画と音楽を入れると 64GB でもすぐに満杯となってしまうが現在の研究・教育活動に必要な動画は全て入れることができた。

(1) スケジュール管理

iPad は **iPhone** に比べて画面が大きいので、**iPad** 上でのスケジュール管理はコンピュータで **Outlook 2007** を使用するのと変わらない。月単位の表示も見やすくキーボードの入力も容易である。しかし **Outlook 2007**（コンピュータ）をスケジュール管理の基本に置いているため、**iPad** 上でのスケジュール更新はあまり行っていない。**Outlook 2007** と **iPhone** で更新されたスケジュールを同期して持ち歩くというのが現段階での利用法である。

(2) アドレス帳管理

iPad を入手して間もないこともあり、**iPhone** のアドレス帳を共有しているだけである。**iPad** には電話機能がないので、今のところ連絡帳を有効に活用しているとは言い難い。連絡帳の活用方法は今後の課題である。

(3) インターネットとメール

無線 LAN 環境があるところではインターネットのサイトやメールが簡単に閲覧できる。**iPhone** に比べて画面が大きいことが **iPad** の強みであり、アクセスの速度も格段に速い。電池の容量も大きくなっており、各種の動作を行っても電池の消耗が少ない点が良い。**kuemail** については、メールの閲覧だけなら **WebMail** ログイン画面から開くとコンピュータと同じ画面でメールを読むことができる。しかし **WebMail** ログイン画面からメールを返信することができない。返信が必要な場合はモバイル版ログイン画面で操作する必要がある。私の **iPad** には両方のログイン画面のアイコンを作って必要に応じて使い分けている。

(4) お気に入りのアプリケーション

iPhone にもあるが「マップ」アプリが大きな画面で活躍する。「産経新聞 HD」は **iPad** の専用のアプリで画面も見やすいが購読料が発生する。「大辞林」「指さし会話 韓国」「指さし会話 中国」「元号」は **iPhone** 用に購入したが **iPad** でも利用することができる。**iPhone** では「MiniPiano」を使っていたが、大きな画面の **iPad** ではピアノの鍵盤が 2 段になっている「Virutuoso Piano」が便利だ。伴奏を付けて両手でピアノを弾くことができ、持ち歩くキーボードとして重宝している。勿論 **iPad** で大きな話題となっているアプリ「iBooks」も入れてある。

(5) 動画と音楽

研究資料として必要な動画と音楽は **iPad** で持ち歩き、時間があればいつでもどこでも見たり聞いたりすることができる。そのため **iPad** は私の研究にとって最も重要なアイテムとなっている。現在、私の **iPad** には義太夫節・パンソリ・評弾他の映像が DVD73 本分入っている。CD は 500 枚以上。私にとって **iPad** はもう手放せない存在となってしまった。

4. おわりに

iPhone と **iPad** の操作は類似しており本体画面の大きさと容量が違うだけかと思っていたが、それぞれに独自の発展の可能性がある事が **iPhone** と **iPad** を使用して分かった。他のユーザーも個人個人で自分の世界を楽しんでいるはずだ。この多様性こそが **iPhone** と **iPad** の大きな魅力なのである。

7月29日の“THE WALL STREET JOURNAL (ウォールストリートジャーナル 日本版)”に「アップル、iPhone3G の新 OS 不具合で調査」という記事が載っていた。iPhone3G の基本ソフト (OS) を最新の iOS4 に更新すると問題が生じるという内容である。私の iPhone も OS を絶えず最新のものに更新しているため、iOS4 への更新後、iPhone3G の処理速度がかなり遅くなった。この点について不便を感じていないといえば嘘になる。現在 iPhone 4 への機種変更を計画しているが、iPhone 4 でも電話機の持ち方によって電波が受信できなくなるという不具合が発生しているようだ。新しい技術の開発には様々なトラブルが避けられない。致命的な欠陥でない限り、すぐに不具合を解決した新しい OS が提供されるだろう。

先日、店頭で iPhone 4 を試してみたが、iPhone3G よりもがっしりしていて手に取ると重く感じた。私は iPhone3G の感触に馴染んでおり、こちらの方が気に入っている。しかし iPhone 4 の画面は本当に美しくなったし、iPhone3GS から可能になった動画撮影や、より高感度な写真撮影ができるので、電波受信の問題が解決され次第 iPhone 4 の 32GB モデルを購入する予定である。

Macintosh との思い出

体育学科 小松崎 敏

私が Apple 社の製品を使うようになった契機は、大学時代の卒業論文の執筆であった。当時は、感熱紙を挿入すればそれ一台で文書作成から印刷までできるという文書作成の専用機「ワードプロセッサ (ワープロ)」が存在していたし、ワープロで卒論を書いて提出した者もいた。しかし私は、大学院に進学していた先輩から、図表を自由自在に作成し、そしてそれを用紙上に自由自在にレイアウトするには「パソコン (PC)」しかない、というお言葉を頂いていた。図表をこしらえるというのは何となく分かるが、「レイアウトする」とはいったい何事か。「レイアウト」の意味を理解することができないまま、当時すでに Apple Computer 社 (現 Apple 社) 製 PC である「Macintosh (マッキントッシュ、Mac (マック))」使いであった先輩方のオペレーションを背後から眺めてみた。

先輩方が研究室で使用されていた Mac の中で最も「高級」と言われたのは、SE/30 (エスイー・サーティー。当時 40~50 万円とも!) という 9 インチモノクロ画面のコンパクトな一体型 Mac であった。私は大学に入学する時、父親に「テレビが欲しい」と無理を言い、14 インチのカラーテレビ (申し訳なかったので最安のものを選び 1 万円弱だった) を買ってもらっていたので、「最高級品 SE/30」を見たときの印象は「画面ちっさー、そして白黒で」というものでしかなかった。

ところが先輩のオペレーションを眺めるうちに、「そ、そう来るか!」と驚いた。さっきまで画面上にあった図が一瞬にして消えたかと思うと、画面がぐり~っと動き、消えた図が再度現れるや否や、それまでそこにあった文字列がまるで追い出されたかのように下方向にパラパラと表示されていくのである。まるで、真っ白な台紙の上に図や表、写真、文字列を自由自在に「置いていく」という感覚であった。レイアウトとはどういうことなのか認識した時だった。

私の驚きの向こうで、別の先輩はカタカタと学会発表のためのポスターを作成している。すると急に画面が真っ白になり、文字通り白紙に戻ってしまった。

私:「ぜ、ぜ、全部消えちゃいましたけど…」

先:「あのねー、見えなくしてるの」

消したのではない。見えなくしたのだという。一体どういうことか。

ディック・ブルーナ (Dick Bruna) という人がいる。わが国でも「Miffy (ミッフィー、うさこちゃん)」の作者として著名なオランダのデザイナーだが、彼は Miffy やその他のキャラクターなどを、まずトレーシングペーパーに描くのだという。次にトレーシングペーパーを水彩画用の紙に重ね、トレーシングペーパーの輪郭をなぞって下に敷いた用紙に溝をつける。そしてその溝に、黒いポスターカラーを落とし込むように、ゆっくりゆっくりと輪郭を描く。描かれた輪郭は、今度は透明なフィルムに焼き付けられる。そしてそのフィルムを「ブルーナ・カラー」と呼ばれる 6 色の色紙に乗せ、最終的な配色を決めていく (芸術新潮編集部、2007)。彼のデザインは、トレーシングペーパーと水彩画用紙、透明フィルムと色紙という「重ね合わせ」を通して生まれている。

このような「重ね合わせ」の方法は、コンピュータソフトウェア上では「レイヤー」という機能で実現している。最終的な文書やポスターの完成形は、すべてのレイヤーを重ね合わせて印刷したものになるが、その制作過程においては、「ここを少し拡大したいが、その他の部分には手を

着けたくない」といったニーズが生まれる。手を着けたくないレイヤーは「非表示」にして、加工したいレイヤーに対して拡大処理を施す。その後すべてのレイヤーを表示し、できばえを確認する。私が見たのは、そのようなオペレーションであった。

余談になるが、私の知人にデザインオフィスを営むデザイナーがいる。昨年所用で彼の事務所を訪れ、仕事作品を眺めていたときの話である。

私：「これレイヤー何枚使うてはるの？」

デ：「あんまり覚えてへんけど、70枚ぐらいちやいますかね。74枚だったかな」

よくもそれだけの数のレイヤーを管理できるものだと大変驚いた。もっとも、ただ単に70枚が順繰りに重ね合わさっているのではなく、1枚のレイヤーの中に子レイヤーがあり孫レイヤーがあり…というネスト（入れ子）構造となっていた。そうでもしなければ、2桁を超すレイヤーをマネジメントすることは到底困難だろう。

話を元に戻そう。こうして今あらためて考えてみると、私が先輩方の操る Macintosh という機械を見て大変驚き、自分自身も使い始めるきっかけとなったのは、強力なレイアウト機能を持つ DTP（デスクトップパブリッシング）ソフトウェアや、2次元画面上で3次元的レイヤー操作が可能なドロー系、ペイント系ソフトウェアの存在であったように思う。

私がコンピュータの実機をまじまじと見たのは中学生の時だったが、技術科の先生は「すごーだろ」と言って真っ黒な画面の中に白い円を表示して見せてくれた。黒い画面に白文字というパソコンの画面は、それから10年も経たずして白黒が反転^{注1}、しかも自由自在に書き散らかせるようになっていた。画面の中で見たものが、そのまま紙に印刷されて出てくる。WYSIWYG（ウィジウィグ：What You See Is What You Get）と呼ばれる技術をほぼ実現していた Macintosh の、小さなモノクロ画面の中に私が見たのは、まさに真っ白なスケッチブックだった。

特定のアプリケーションソフトウェアを利用したいがために、特定のハードウェアや OS を導入する。このようなソフトウェアは「キラーアプリケーション（killer application）」と呼ばれる。初期 Macintosh におけるキラーアプリケーションは、先に述べたような DTP や画像処理関係のソフトウェアであった。私もその魅力に惹かれたと言えるが、残念なことにそのようなソフトウェアは高価であったので、しばらくの間は買えずにいた。

Apple Computer 社は、Macintosh シリーズの前に Apple II という PC を製造、爆発的な売り上げを記録したが、その裏にもキラーアプリケーションの存在があった。それは Personal Software 社の販売する「VisiCalc（ビジュアルク）」という表計算ソフトウェアであった。また、それから数年後には IBM 社から IBM PC が販売されるが、その陰にも「Lotus 1-2-3」という表計算ソフトウェアがあった（相田・大塚、1996）。今でこそ表計算ソフトウェアと言えば Microsoft 社の「Excel」が有名であるが、その誕生の背景には意外な事実がある。

まず、「Excel」が開発される以前に Microsoft 社からは「Multiplan（マルチプラン）」という表計算ソフトウェアが発売されていたこと。「Multiplan」は Microsoft 社が初めて開発したアプリケーションソフトウェアであったが、どんなコンピュータでも動くよう設計され、様々な OS 向けに移植された。しかし、互換性を担保するためには動作速度を犠牲にしなければならず、後発の「Lotus 1-2-3」の圧倒的なスピードに対抗することができなかった。「Excel」は、「打倒 Lotus」という目標を掲げて開発された。

もう1点、その Excel は Microsoft 社の製品であるから、同社製 OS である MS-DOS（を搭載した IBM-PC）上で動作するバージョンが開発されるはず、ましてや打倒 Lotus なのだから、と

思いきや、最初に世に出たのは 1985 年、Macintosh 向けのものであったということ。Macintosh は、アイコンやウインドウをマウスで操作するという当時としては画期的な GUI（グラフィカル・ユーザ・インターフェース）を搭載しており、Excel はその GUI 環境を活用したソフトウェアに仕上がっていた。

私は、遅ればせバージョン 5.0 あたりから使い始めたのだが、ある時 300 件ほどのデータを入力することになった。A 列には通し番号を振る必要があったので、1、2、3、4…と、300 番までの真っ向入力に挑んだ。80 ぐらいまで通し番号の入力が終わった頃、研究室に先輩が入ってこられ、さんざん笑われた。「あのねー、そんなの 3 秒で終わるよ」と言いながら私からマウスを奪うと、セルの右下にあるフィルハンドルにマウスを合わせ、下方向にドラッグした。Excel のオートフィル機能によって、あっという間に 300 の通し番号が設定された。なんて賢いんだろうと、私は腰を抜かした。このようなパソコン初心者時代のエピソードはまだまだある。そう言えば、Macintosh を買いに行くところからすでにつまづいていた。

寒風吹きすさぶ師走、場所は東京秋葉原電気街。段ボールに入ったままのパソコンを山のようになり積み上げ、薄利多売を掲げて商売するお店があちこちにあった。私は画面が小さい一体型タイプではなく、どうしても本体とディスプレイが別になっているものが欲しかった。アルバイトで貯めた資金を胸に、1 円でも安く買うために足を棒にして激安店を回りまくり、ようやく購入する運びとなった。さすがに持って帰ることはできなかったもので、配送の手配を行い、鈍行電車に揺られて帰った。後日到着した品々を開梱し、本体の上に 13 インチのディスプレイを乗せ、わくわくしながら設置を終えたのだが、何か足りないことに気づいた。ないのである。キーボードが。段ボールをひっくり返しても出てこない。「べ、別売りか…」

再び秋葉原まで買いに行くことを思い非常にがっかりしたのだが、GUI の Macintosh、マウスはきちんと付属してきたので、せっかく買ったのだから電源ぐらいと起動させてみる。ポーンという起動音がし、画面には Happy Mac と Welcome to Macintosh の表示、それに続くアイコンパレード（OS の機能拡張書類やコントロールパネル書類が画面左下から右方向へ 1 つ 1 つ表示されていく）。早く、早く。デスクトップが表示され、マウス操作に合わせてカーソルがぐるぐる動く。キーボードがないので名前を入力などはできないものの、時間帯や時刻の設定などを済ませ、内蔵されていた「計算機」のアプリケーションをマウスで操作しながら、ちゃんと計算してくれるんだと感動した。そしてすぐにでもキーボードが欲しくなった。

再び Excel の話に戻るが、私も Excel が表計算ソフトであると聞かされていながら、「計算機」であることを実感できずにいた 1 人である。手元の電卓で計算をしながら、その計算結果を Excel のセルに入力して表を作成するという、何のために Excel を使っているのかさっぱりわからなくなるような作業を行ったことがある。私の場合はさらに悲惨で、電卓ではなく先の「計算機アプリ」で計算をし、その結果を Excel に入力していた。しかも、キーボード別売りショックの弊害で、計算機アプリケーションは「マウスでも操作できる」ということが、計算機は「マウスで操作するものだ」という先入観にすり替わってしまっていた。マウスで数字をカチカチと押して計算し、その計算結果を Excel に入力するという、何とも七面倒な作業を行う私を見て、先輩方は苦笑いをしながら 2 つのことを教えてくださった。計算機アプリケーションは、キーボード右端にある 10 キーで操作できること。そしてそもそも Excel を使っているのに計算機などを用いる必要がないこと。

これまでは、主に Macintosh におけるソフトウェア環境について記してきたが、PC としての

操作性、特にキーボードショートカットにも触れておきたい。冒頭に述べた先輩のオペレーションは、単にそこにあった図をカット（切り取り）して画面をスクロールし、ペースト（貼り付け）したというものだが、Apple 社が製造するマウスは 1 本歯のネズミと呼ばれ（梅津、1998、p.191）伝統的にボタンが 1 つしかなかった。つまり Windows ユーザにおなじみの「右クリック→切り取り」や「スクロールボタンでぐりぐりスクロール」、「右クリック→貼り付け」という操作は、当時のマウスでは不可能だった。Macintosh におけるこれらのオペレーションは、メニューバーのプルダウンメニューを選び、スクロールバーを押すといったマウス操作で可能になるが、左手と右手の協調動作を行うとその操作性は飛躍的に向上した。

私は「なんで Mac を使うのですか」と尋ねられた時、「⌘キーがあるからかなあ」と答えることがある。「⌘」は、Command（コマンド）と読む^{註2}。グラフィックデザイナー、Susan Kare によるもので、「面白い場所」「特別な特徴」を表すスウェーデンの地図記号をヒントにしたと言う（クンケル、1998、p.23）。私の生活の中で、Mac における⌘キーは、非常に重要な役割を果たしている。例えば、つい今さっきのことであるが、執筆途中の状態の上書き保存をする時には、「⌘」を押しながら「S(save)キー」を押す。

大学院生時代、冬場、隣の研究室で電気ストーブをつけ電気ポットでお湯を沸かしている時に、私たちの研究室で電子レンジでも使おうものなら、一発でブレーカーが落ちた。せっかく書き上げた文章や作りあげた図表もすっかり消えてなくなった（ラップトップ PC を使っている者は、内蔵バッテリーのおかげで消えなくて済んでいた）。万一の OS クラッシュや停電などに備え、入力途中ファイルのこまめな保存は大変重要である。

Mac の⌘キーは、QWERTY 配列キーボードの「Z」「X」の下あたりに位置している（逆サイドにもある）、普通は左手親指で「操作」する。実は今「操作」ではなく「押下」と入力したのだが、「押下」という言葉は適当なのか疑問に思いインターネットで検索したのでそのオペレーションを書いてみると、1)右手左矢印キーで「下」の後ろまでカーソル移動、2)左手 Shift を押しながら右手左矢印キー2回で「押下」文字列を選択、3)左手⌘+C キー（文字列コピー）、4)左手⌘+Tab キー（実行アプリケーションをブラウザに切替）、5)左手⌘+右手 N キー（新規ウインドウ）、6)左手⌘+2 キー（2 番目のブックマークサイトへ接続）、7)左手⌘+V キー（検索ウインドウに文字列ペースト）、8)右手で Enter（検索実行）、9)これはと思うサイト上で左手⌘+右手マウスクリック（新規ウインドウでサイトを開く）、10) 左手⌘+W キー（ウインドウを閉じる）、以下 9)、10)を数回繰り返し、「押下」は一般的ではないかなと思いついて「操作」に修正、という具合である。私にとって何ともありがたいキーである。

1885 年、留学帰りの教授に勧められた東大赤門前の洋書屋は、輸入筆記用紙を綴じたノートを生産向けに売り出した。その評判を聞いた神田丸善が、イギリスに用紙を特注して大量輸入、生産販売したのが「大学ノート」の由来とされる。横罫の間隔はアルファベット用そのままであり、漢字の記入には狭すぎたが頑張って小さい文字で書くようになったと言う（佐藤、1987、pp.148-149）。それから約 100 年、再び海を越えてやってきた新しい道具は、またしても英語など 1 バイト言語を想定したものだった。CJKV (Chinese-Japanese-Korean-Vietnamese) といった言語を扱うには、狭い横罫に小さい文字で書けばよい、というわけにはいかなかった。

Macintosh における日本語入力環境は、ERGOSOFT（エルゴソフト）という会社が牽引した（残念ながら、現在は全製品の販売を終了している）。私が購入した当初の Macintosh は、かな漢字変換の効率に優れているとは言えず、ERGOSOFT 社製の EGBRIDGE（イージーブリッジ）

というソフトウェアを導入したときには、その賢さに大変驚いた。また、この原稿は日本語で書いているが、しばしば英単語入力が必要に迫られている。そんな時は、左手⌘+右手 Space キーで日本語入力環境と 1 バイト英数字入力環境を切り替えることができる^{注3)}。この「⌘+Space」というキーボードショートカットは、今では私の中にすんなりと溶け込んで非常に操作性が良く、変換効率のよい日本語入力ソフトと組み合わせると、この機械が舶来品であることを感じさせない。MacOS を搭載していない機械を触っていても、ついつい押してしまうキーである。

さて、買い忘れたキーボードを買いに再び秋葉原へと向かったわけだが、先輩曰く「英字配列 (QWERTY 配列。キートップにひらがなが表示されていないもの) を買ってきなさい」。その理由を尋ねると 1) 米国に行ったとき困るからローマ字入力を覚えよ、2) ローマ字入力するならひらがなは不要、3) 日本語<-->英数字の切替は⌘+Space で行えばよい、4) あとは入力スピードでカバーせよということだった。納得したようなしなないようなで、結局今メインに使っているキーボードも QWERTY 配列なのだが、Space キーの長さが横に 12.7cm もあるため「大体このあたりかな」と叩いても Space キーに当たってくれるので大変重宝している。

時代と共に CPU が変わり、OS が変わり、デザインが変わる。13 インチのブラウン管から始まった私の PC ディスプレイも今や 30 インチ液晶×2 枚構成となり、情報の一覧性が格段に向上した。メインとして使っている Mac は現在 3 代目であり、壁紙を変えたり、起動や警告音を変えたり、スクリーンセーバーをいじったりといった「戯れる」関係から、論文や原稿の執筆、レジュメやプリントの作成、計算分析、図表作成、パンフレット、ポスター、垂れ幕の製作、映像の編集や DVD オーサリングなど、プロの方には笑われてしまうようなものもたくさんあるけれど、自分なりに何かを創り出すための「道具」としての関係に変わってきた。

道具は大切と言うが、メモリやハードディスクなどを増設して電源を入れるとき、ついつい「お願いします。ちゃんと起動してください」と祈ってしまうクセは、初代機の 72pin SIMM を増設した時から続いている。この 3 代目とはかれこれ 6 年間のつきあいになるが、HD 映像の編集は荷が重いようで、そろそろかな、なんてことを書くとヘソを曲げてしまうかも知れないから書かないでおこうとか考えたり。Mac とはまだしばらくそんな関係が続くように思う。

<注>

1. MacOS が搭載する障がいを持つ方向けの機能ユニバーサルアクセスの効果で、option+control+⌘+8 を押すとディスプレイの色が反転し、黒地に白文字表示をすることができる。
2. Apple II 時代にはアップルキーと呼ばれていた。
3. OS 10.4 から搭載された検索機能 Spotlight に、このキーボードショートカットを割り当てることができるようになった。入力メニューの切替と排他使用となっている。

<引用文献 (引用順) >

- 芸術新潮編集部 (2007) ディック・ブルーナのデザイン. 新潮社.
- 相田洋・大塚敦 (1996) 新・電子立国(3)世界を変えた実用ソフト. NHK 出版.
- 梅津信幸 (1998) かじれ、さらば開かれん. 外崎則夫・梅津信幸著 マイクロソフトシンドローム. オース出版社, pp.191-196.
- ポール・クンケル: 大谷和利訳 (1998) アップルデザイン. アクセスパブリッシング.

佐藤秀夫 (1987) 学校ことはじめ事典, 小学館.

再びのアップルユーザー

理学科 高嶋 隆一

1. アップルの使い始め

この大学に博士課程の3年で1983年に就職し、博士論文はPC9801で書きました。出力はドットインパクトプリンターというものでした。

沖花先生と京大の政池先生の尽力を得まして、1986年に10カ月米国のフェルミ研究所の客員研究員として滞在しました。現地に滞在している日本人たちがMac Plusなるパソコンを得意げに使っているのを見て羨ましく思いました。とくにポストスクリプトなる技術で印刷される文書がきれいでした。日米協力事業というのがあったので、帰国後も出張していたと思います。1987年に6月に子供が生まれた後、出張があり、シカゴ大学に行ってMac Plusを買い、持ってきたときのことです。カード入れのクレジットカードがなくどこに行ったのかと思ふと、計算機の前ではいはいしている娘のことが気になりました。案の定、ディスクの出し入れを見ていた娘がカードをディスクのスロットに突っ込んでいたのです。どうして取り出せたのかは昔のことなので思い出せません。その後ほとんどplusと同じ仕様のMac SEを公費で買いましたが、それは京大の院生たちもやっていたカーレースのゲーム機と化していました。その頃はマクラーレンホンダというのがエンジンのパワーで連戦連勝をしていました。1987年は小柴先生の退官の年で、在任中に超新星爆発が起きました。その後、素粒子反応の画像解析をMac SEで行い、学会で発表したりしています。京大の人たちはSUNワークステーションなるものを使って画像解析していました。使ったコンパイラーはThink Cなるものだったと思います。

2. ワークステーションからPC Linuxへ

1990年代の初めの素粒子実験の計算機で有名なワークステーションはVAXでOSはVMSというものでしたが、最初はSUNのワークステーションに、次の段階ではシリコングラフィックスのワークステーションが使われるようになっていきました。素粒子物理学の世界ではテキサス州にレーガン加速器研究所がつくられ、超伝導スーパー衝突型加速の建設が始まっていました。その頃はアメリカとソ連の核兵器開発がエスカレートし、アメリカは宇宙空間で大陸間弾道弾を撃ち落とすSpace Defense Initiativeなる計画が進んでいたと思います。1993年の2月に広島大学の杉先生からカリフォルニア大学のサンタクルズ校にいて測定器の運転について学んでくるように言われ、一週間滞在しました。このときも向こうの大学でMacセントリスなる計算機を買って帰りました。いまみたいにGPSがなかった時代ですので、サンフランシスコの空港からレンタカーを借りたのですがどう行ったらいいかわからず心細い思いをしたものです。その頃はPCの速度がどんどん速くなり、Macの勢いに陰りが出てきたころでした。

90年代の半ばは値段の高いワークステーションを使うのが主流でした。私も大学の予算でシリコングラフィックスの計算機を買ってもらい、半導体検出器の開発に使っていました。この時アメリカの研究施設では盛んにXilinxやALTERAという会社のプログラムのできるLSIを使い始めて、なかなかついていけずもどかしい思いをしました。チップにプログラムを書き込むツ-

ルが日本からは簡単に入手できませんでした。おまけに測定器の読み出しチップは高放射線耐性のものをつかっており、国外に出ているチップをアメリカは厳重に管理していました。その関係で開発段階と量産されたモジュールはすべて米国のフェルミ研究所に渡りました。検出器の載っていない放射線耐性のない電気テスト用のものがわずかに本学に残っています。

90年代の終わりのころには PC-Linux が十分な速度を出すようになり、ワークステーションが使われなくなる時代がやってきました。Mac はさらにその前にあまり使われなくなっていたと思います。OS もシステム 7 と呼ばれていて Unix ではなかったですから。

90年代の終わりのころは Emacs を使ってワークステーションでメールをみてました。その後去年までは PC-Linux の Vine という Linux の配布版を使ってみていましたが、今年から Windows でメールをみています。2000年代の素粒子物理学の研究では Linux が使われるようになったので、ノートパソコンも OS を二つ入れて使っていましたが、Linux は無線が苦手でした。

3. ふたたびのアップル

数年前からの耐震改修で、パラレル IO ボードを作って学生実験に使っていた PC 8801 や、6, 7 台あったアップルの計算機もすべて廃棄処分となってしまいました。アップルの関係しているものと言えばデジカメの動画ファイルが QuickTime のものだったぐらいです。ところが昨年ふとした気まぐれで、3cm 角ほどの iPod shuffle を買いました。最近また、何気なく生協のカタログをみたところ結構アップルの製品がのっており、iMac を買うことにしました。素粒子物理学の研究現場でもソフトウェア開発をしている人たちは Mac Book Pro を持っていることが多いです。実験のときに PCI バスに GPIB インターフェースを差して使うことなどから、PC も必要ですし、サーバなどは Linux が必要です。この上 Mac もとなると面倒だなと思うこともあります。

幸いなことに、娘が大学で iMac を使っているのので、今は教えてもらっています。自宅の居間に机があるのですが、無線ランでネットとつながり、Bluetooth とかいう無線システムでマウスとキーボードがつながっているのが不思議です。

gcc コンパイラを入れたり、TeX や gnuplot や素粒子物理の解析環境である root というソフトを入れました。MacOffice をいれたり、MacBook を買うとさらに Mac のユーザーらしくなりますがいまのところ考慮中というところですね。とにかく Unix との親和性が高いのが我々の業界で使われる理由だと思います。CERN 研究所の一部の実験用の iMac には Linux しか入ってません。またノートの Mac OSX に物理研究の athena と呼ばれる大きなフレームワークソフトウェアを入れている人すらいるようです。これらのフレームワークと呼ばれるものは make ファイルや実行時にオプションを指定する Python と呼ばれるスクリプトを自動生成します。多分ソフトウェアの最新の開発環境を取り入れているのだと思います。

Mac の変わったところと言えば、上側のメニューバーが選択されているアプリケーションになるところですね。これは Windows とも Linux とも違うところです。これら基幹ソフトウェアがアメリカとヨーロッパにかなり依存しているところはちょっと残念ではありますが、日本は実物の生産が得意なのであまり気にしなくてもいいかとも思います。アップルのハードが 6 千円の iPod shuffle を始めとして手ごろな価格で購入できるようになり、また iPhone や iPad など気になる商品がたくさん出始めたのは楽しいことかとも思います。

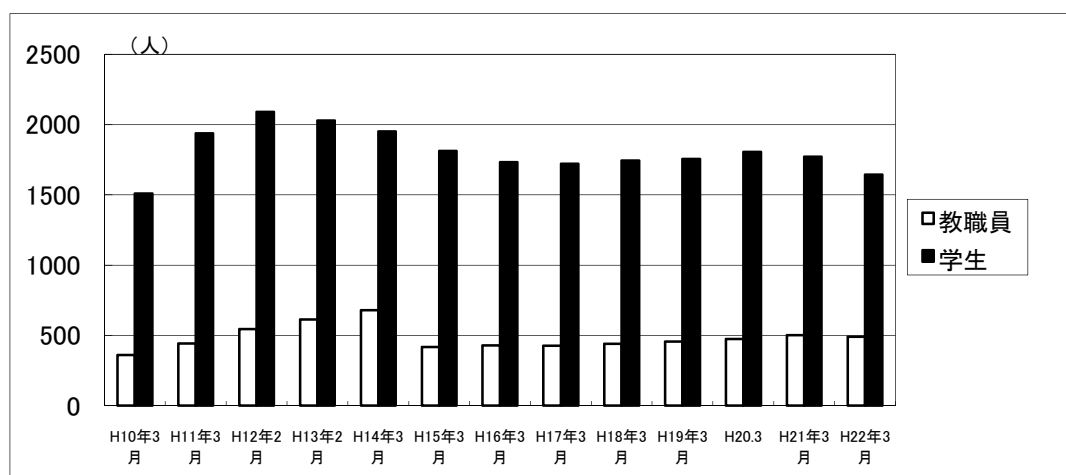
平成 21 年 度
情 報 処 理 セ ン タ ー
利 用 結 果

平成 21 年度利用状況

§ 1. 電子メール

(1) 電子メール登録者数 (H22.3.29 現在)

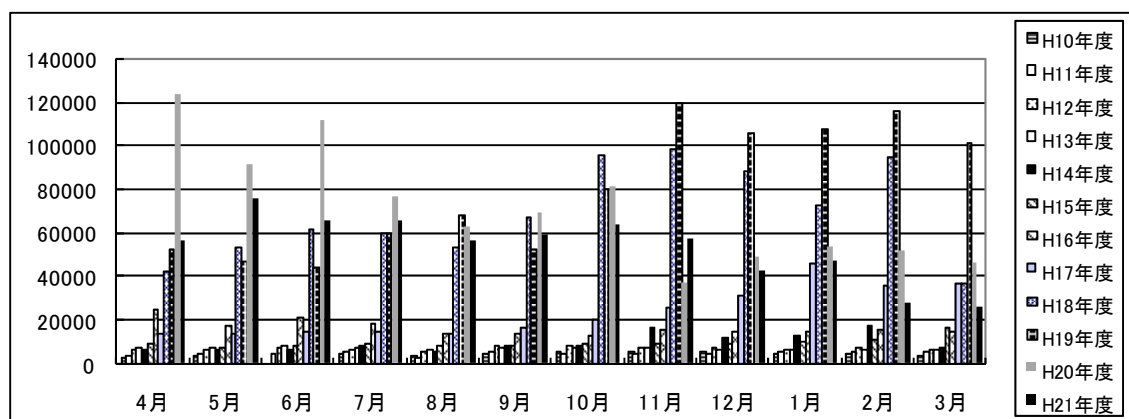
大学教員	132 人	附属教員	206 人	事務職員	154 人		
学部学生	1464 人	研究生	16 人	院生	282 人	合計	2135 人



平成 12 年度より学部改組に伴い学生定員が 1 学年 420 人から 300 人に減少し、その結果学生登録者数も減少したが 15 年度以降は大きく変化していない。平成 22 年度は新入生の減少に伴い学生数がやや減少している。教職員数もここ数年変わりが無い。1-4 回生は編入生も含め入学時に自動登録され、全学生が登録している。教職員も平成 17 年度から着任時に大学から付与する形をとっている。教職員は大学教員、附属教員、事務職員の他名誉教授も含まれる。

(2) 電子メール送受信数 (H21 年 4 月～H22 年 3 月)

4 月	56734 件/日	5 月	75557 件/日	6 月	65247 件/日	7 月	65967 件/日
8 月	56208 件/日	9 月	59177 件/日	10 月	63457 件/日	11 月	57622 件/日
12 月	42616 件/日	1 月	46887 件/日	2 月	27904 件/日	3 月	26266 件/日



月別 1 日あたり電子メール送受信数

1日あたりのメール送受信数を示す。平成21年度の2月(平成22年)からはメール数が大幅に減っているが、これはシステム更新に伴ってメール数のカウント方法が変更され、従来重複してカウントされていた分が解消されたためである。

(3) メールサーバ利用者用ディスク使用量(H22.3.29 現在)

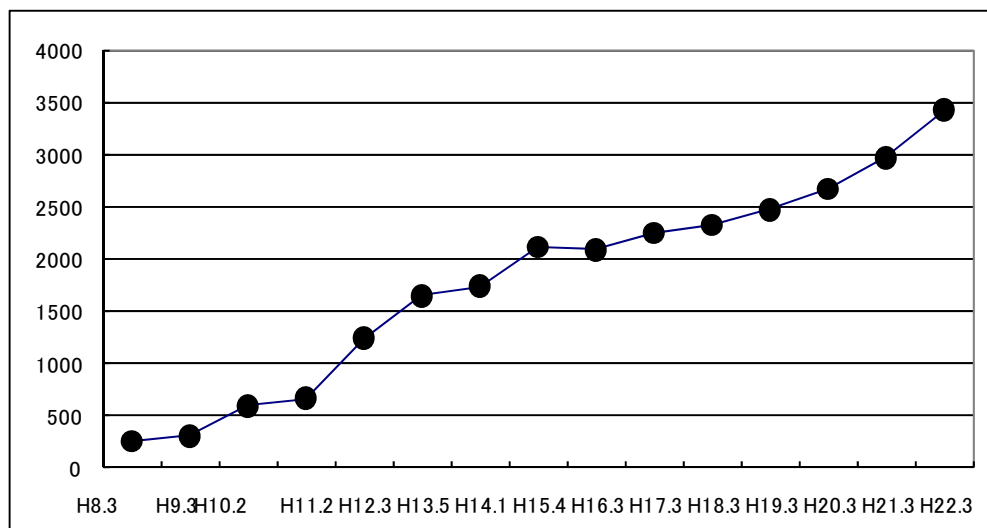
利用者領域 (/home) 総容量 134.4GB 使用率 78%

§ 2. ネットワーク

(1) 学内ネットワーク接続クライアント数 (H22年3月末)

情報処理センター	406	A、C、理科教育棟	313	F棟	10
B棟、実践総合センター	378	G棟	204	D、特美、トレセン棟	115
本部庁舎	309	大学会館等	44	図書館	107
国際交流会館	33	環境センター	15	高校	287
特別支援学校	117	桃山中学校	214	幼稚園	24
桃山小学校	180	京都中学校	464	京都小学校	196
駅前サテライト教室	3				
				合計	3419台

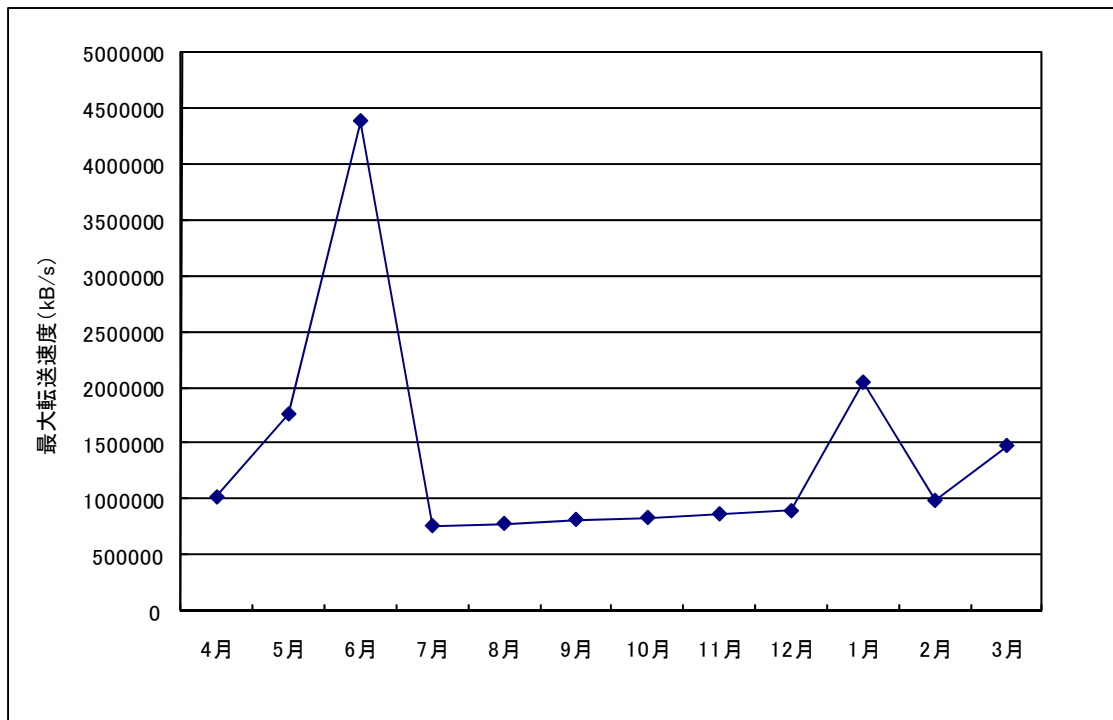
平成11年ATM導入以降学内ネットワーク接続数は急速に増大している。現在学内すべての研究室・講義室・演習室・事務室に100Mbpsの情報コンセントが敷設されている。平成18年2月の機器更新時に基幹コアスイッチまでを1Gbpsで接続し、平成18年10月に各棟のエッジスイッチまでは1Gbpsで接続できるように増強を図った。平成19年2月には京都駅前サテライト教室と本学の間を100Mbpsで接続した。



学内ネットワーク接続端末数推移

(2) トラフィック状況

a) 学外 (SINET) との通信量 (H21.4~H22.3)



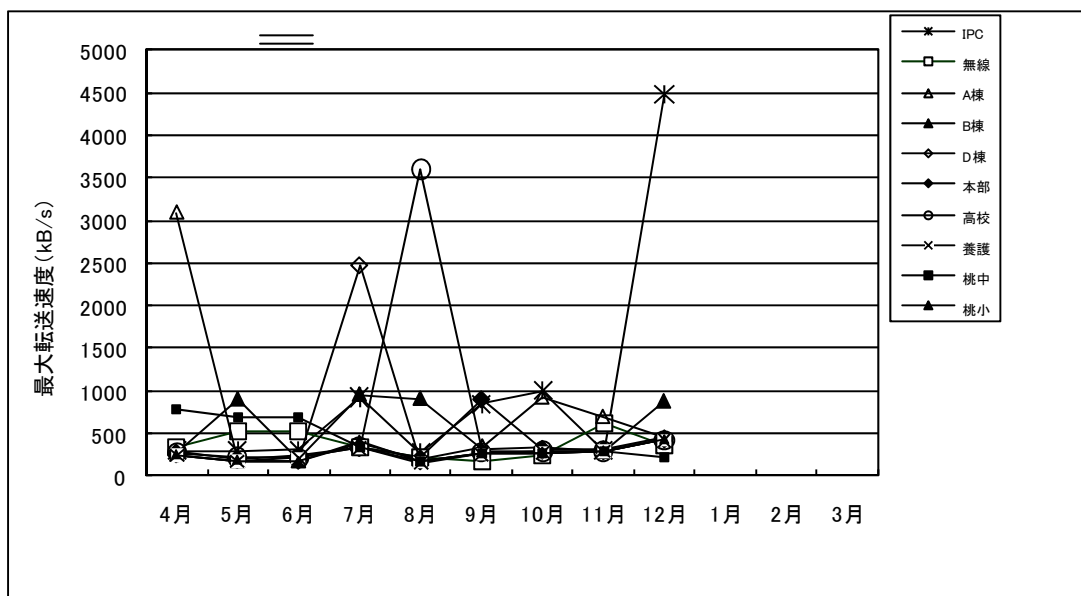
月ごとの最大通信量

本学のネットワークは平成 15 年 7 月より SINETへ 100Mbps で接続されており、平成 22 年 3 月に 1 Gbps に増速された。グラフは 1 日の最大通信量を月ごとに示したものである。最大通信量はおよそ 10Mbps 前後であり、多い月でも 45Mbps 以下である。

b) 学内の通信量 (H21.4~H22.3)

基幹コアスイッチと各建物のコアスイッチとの間の通信量を示す。

*H22.1~H22.3 については機器更新のためデータなし



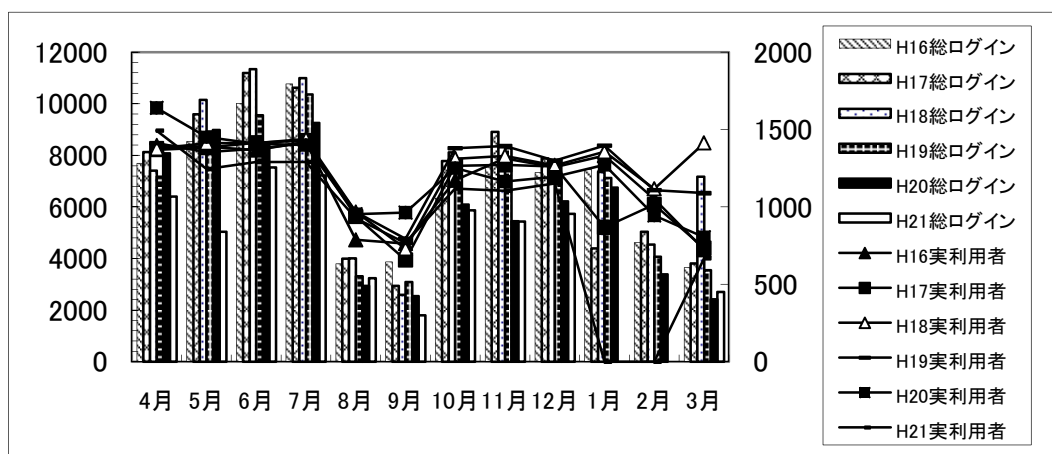
本学のすべての建物内には平成 14 年 4 月より全線 100Mbps、基幹部 1Gbps の高速 LAN が敷設されている。通信量は各建物おおむね 1Mbps 以下であるが、通信量が突出している月がある。これはストリーミング配信など大容量の通信を行ったために一時的に通信が増大したものである。

§ 3. 端末室利用

(1) 端末室パソコン利用者数 総ログイン数 (実利用者数) (H21.4~H22.3)

4月	6403(1493)	5月	5037(1245)	6月	7537(1291)	7月	7222(1296)
8月	8237(926)	9月	1798(768)	10月	5859(1119)	11月	5430(1105)
12月	5729(1152)	1月	0(0)	2月	0(0)	3月	2709(668)

総ログイン数は毎月の利用延べ人数を指し、実利用者数が重複のない利用人数を表す。授業休止期間を除いて、多い月には 1500 人弱の利用者(ほとんど学生)が情報処理センターの端末を利用している。学部学生の IPC 登録者数は § 1 に示すように 1464 人であるから、ほぼ全ての学生が毎月 1 回は利用していることになる。平成 21 年度の利用者数の傾向はシステム更新のため閉館していた 1、2 月を除けば例年とほぼ同様である。

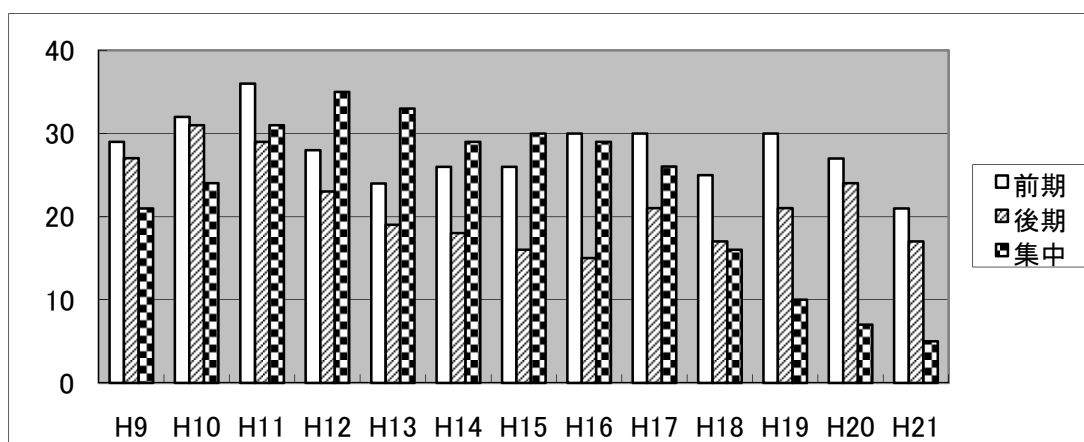


月ごと端末ログイン回数 (左軸)、実利用者数 (右軸)

(2) 端末室授業

利用コマ数 (H21 年度)

前期 21 コマ 後期 17 コマ 集中授業 5 コマ



年間端末利用コマ数推移

平成 12 年度に改組に伴う大幅なカリキュラム変更があり、全授業数が減少した。そのため IPC 授業利用数もやや減少した。前期に片寄る傾向があるのは情報基礎科目（情報機器の操作など）を入学後早い時期に履修させるという措置の結果である。平成 21 年度の時間割は 頁参照。

§ 4. ワークステーション利用

1. 研究用ワークステーション (H22.3.29 現在)

(1) 登録者数

教職員 11 人 学生 4 人 合計 15 人

(2) 利用者用ディスク使用量

利用者領域 (/home) 総容量 33.5GB 使用率 36%

§ 5. 貸出機器利用数

(1) 館外貸出

端末室以外での授業利用として、A4 ノート 20 台、モバイル 2 台、デジタルビデオカメラ 3 台、デジタルカメラ 1 台を貸し出している。授業期間中は A4 ノートを講義室で利用することが多い。モバイルは教員の出張時の利用が多い。

月ごと機器利用延べ台数

	A4ノート パソコン	モバイル パソコン	デジタル カメラ	デジタルビデオ カメラ
2009 年 4 月	79	0	0	0
2009 年 5 月	43	0	0	0
2009 年 6 月	23	0	0	0
2009 年 7 月	58	0	0	8
2009 年 8 月	61	0	0	1
2009 年 9 月	18	0	0	0
2009 年 10 月	117	6	0	2
2009 年 11 月	66	0	0	2
2009 年 12 月	44	0	0	0
2010 年 1 月	-	-	-	-
2010 年 2 月	-	-	-	-
2010 年 3 月				

(台)

(2) 館内貸出

MO 0 マルチカードリーダー 10
メモリースティック 0 DVD 0

2010 年 1, 2 月はシステム更新のため貸出を行わなかった。また、2010 年 1 月をもってデジタルカメラおよびデジタルビデオカメラの貸出を終了した。

§ 6. 地域開放

8 月 8 日に行われたオープンキャンパスにおいて施設開放を行った。端末室内で、IPC の機器

概要やネットワークの役割などを紹介した。来場者数を下の表に示す。夏のオープンキャンパスは、常に盛況であるが、平成 21 年度は若干減少している。なお秋のオープンキャンパスは、来場者が少ないため平成 21 年度は中止となった。

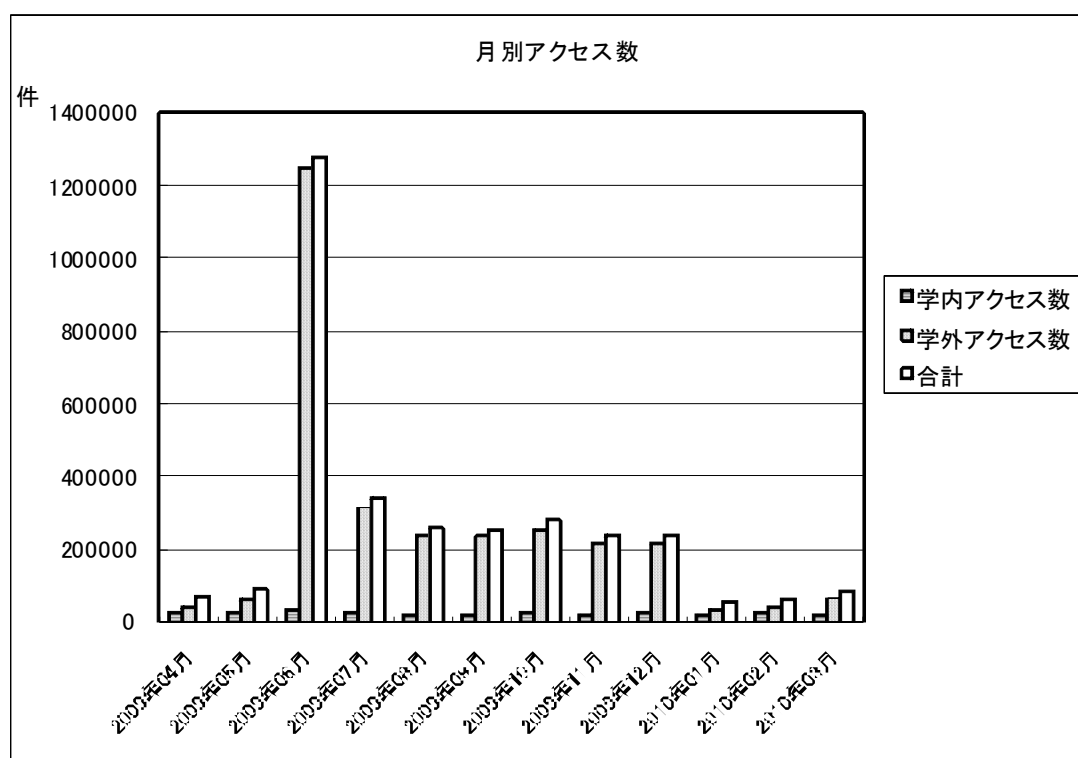
オープンキャンパス(大学説明会)来場者数

	平成 17 年 度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
8 月	165	180	133	200	87
11 月	26	13	14	6	-

(人)

§ 7. 京都教育大学ホームページアクセス数

本学のホームページは、セキュリティ上、学内からのアクセス用と、学外からのアクセス用を区別して別サーバに格納している。両者の内容はアクセス数のカウンタのみ異なり、他の部分は毎日自動的に学内から学外へコピーされるので全く同じである。平成 21 年度における学内からのアクセス数と学外からのアクセス数を示す。学生の不祥事の影響により 6 月からの学外アクセスが急増しており、それにより 6 月から 12 月の全体のアクセス数の合計も大幅に増加している。



2. ウィルス駆除ソフト配信システム

全学のパソコン端末に対し、ウィルス駆除ソフトの導入を徹底するため、ウィルス対策サーバにウィルス駆除ソフト配信システムを導入している。情報処理センターのWWWサイトからSymantec Endpoint Protectionがダウンロードでき、その後は配信サーバの管理のもと、ウィルス定義ファイルの自動更新、パソコンの自動チェックが行われる。現在このサービスを利用してある端末数は624台である。全学の端末に占める割合は依然として低いので、今後もこのサービスの拡大を図り、学内の情報セキュリティの徹底に努めたい。配信サービスを受けていない端末の一部は独自にウィルス駆除ソフトを導入しているが、全くウィルス対策を施していない端末もまだ多いと思われる。

§ 10. インターネット配信

動画ストリーミング配信システムにより、学内の主な行事を動画配信している。インターネット配信のページは本学のホームページから開くことができる。昨年度配信した学内行事を以下に示す。

平成21年4月6日 入学式

平成22年3月25日 卒業式

情報処理センター利用授業時間割表(平成21年度前期)

		月	火	水	木	金
1 限	1	情報機器の操作(a) 多田 知正	スポーツ情報論 中 比呂志	端末室清掃 いずれか一部屋は開 放しています	情報機器の操作(a) 中基 浩	電子計算機 佐竹 伸夫
	2	情報機器の操作(a) 多田 知正	スポーツ情報論 中 比呂志	端末室清掃 指定する端末室のみ 利用可	情報機器の操作(a) 中基 浩	電子計算機 佐竹 伸夫
	3			端末室清掃 清掃中の端末室は入 室禁止		
2 限	1	情報機器の操作(b) 多田 知正	基礎セミナー(体育領域) 中 比呂志	情報機器の操作(g) 伊藤 伸一	中等数学科教育Ⅱ (4月～6月) 渡邊 伸樹	物理学基礎(6月、7月 のうち2回のみ) 沖花 彰
	2	情報機器の操作(b) 多田 知正	基礎セミナー(体育領域) 中 比呂志	情報機器の操作(g) 伊藤 伸一	中等数学科教育Ⅱ (4月～6月) 渡邊 伸樹	物理学基礎(6月、7月 のうち2回のみ) 沖花 彰
	3	飯間(6/8～)		システム論(情報理 論)		
3 限	1	情報機器の操作(c) 佐竹 伸夫	障害児教育工学 梶川 裕司			
	2	情報機器の操作(c) 佐竹 伸夫				
	3	障害児心理特論Ⅱ 三浦 正樹				コンピュータグラフィックス 宇澤 美貴
4 限	1	情報機器の操作(d) 伊藤 伸一	情報機器の操作(f) 高嶋 隆一		アルゴリズムとデー タ構造 佐竹 伸夫	
	2	情報機器の操作(d) 伊藤 伸一	情報機器の操作(f) 高嶋 隆一		教育心理学実験Ⅱ (5月のみ) 水谷 宗行	
	3	スポーツ指導論A 榎本 靖士	家庭科教育特別実習Ⅱ (5/12～) 榎原 典子			コンピュータグラフィックス 宇澤 美貴
5 限	1					
	2					
	3					
6 限	1					
	2					
	3					
7 限	1					
	2					
	3					

情報処理センター利用授業時間割表(平成21年度後期)

		月	火	水	木	金
1 限	1 室		端末室清掃 いずれか一部屋は開放して います		中等数学科教育Ⅲ 榊本 哲	
	2 室		端末室清掃		中等数学科教育Ⅲ 榊本 哲	
	3 室		指定する端末室のみ利用可 端末室清掃			
8:45 ～ 10:15			清掃中の端末室は入室禁止			
2 限	1 室			マルチメディア表現と技 術 渡壁 光温		
	2 室					
	3 室					
10:30 ～ 12:00						
3 限	1 室		コンピュータと情報処理Ⅱ 佐竹 伸夫		生活情報処理 延原 理京	
	2 室	測定・検査法 三浦 正樹			美術教育とコン ピュータ利用 村田 利裕	
	3 室	地学基礎実験(a) (11月末まで) 谷口 慶祐	総合演習(B4) 高嶋 雅一		地学基礎実験(b) (11月末まで) 谷口 慶祐	地学実験 谷口 慶祐
12:50 ～ 14:20						
4 限	1 室		情報構造とデータベース 佐竹 伸夫		教育統計学実習Ⅰ 田中あゆみ	
	2 室					教育心理学実験 IB(12月のみ) 水谷 宗行
	3 室	地学基礎実験(a) (11月末まで) 谷口 慶祐			地学基礎実験(b) (11月末まで) 谷口 慶祐	地学実験 谷口 慶祐
14:35 ～ 16:05						
5 限	1 室				測定・検査論特講 田中あゆみ	
	2 室					
	3 室					
16:20 ～ 17:50						
6 限	1 室					
	2 室					
	3 室					
7 限	1 室					
	2 室					
	3 室					

平成21年度情報処理センター利用授業内容(教育学部)

科目区分	授業科目	授業内容	開講期	単位	登録者数	教員
共通	基礎セミナー(体育領域)	ワード、エクセル、パワーポイントなどの基礎的なソフトの使い方について学習した。	前	2	40	中
	情報機器の操作(a)	WWWを用いた情報収集、Wordを用いた文書作成、Excelを用いたデータ集計、PowerPointを用いたプレゼン資料作成などの実習を行った。	前	2	47	多田
	情報機器の操作(b)	WWWを用いた情報収集、Wordを用いた文書作成、Excelを用いたデータ集計、PowerPointを用いたプレゼン資料作成などの実習を行った。	前	2	42	多田
	情報機器の操作(c)	以下の講義と演習を行なった。 1. IPCの利用上の注意及び電子メールの使い方 2. EXCELの基礎 3. WORDを用いた文書作成 4. インターネットによる情報収集・検索の方法 5. PowerPointを用いたプレゼンテーション技法	前	2	46	佐竹
	情報機器の操作(d)	メールの使い方、オプション設定 WORD文章と図の挿入 EXCEL表の作製、関数の使用 POWER POINT課題作製	前	2	60	伊藤
	情報機器の操作(e)	ワードの使い方 エクセルの使い方 パワーポイントの使い方	前	2	45	中峯
	情報機器の操作(f)	日常的な業務に使用されるアプリケーションから、理科の学習に使用される特殊なアプリケーション、プログラミング環境の利用まで、幅広く演習を行なった。	前	2	43	高嶋
	情報機器の操作(g)	メールの使い方、オプション設定 WORD文章と図の挿入 EXCEL表の作製、関数の使用 POWER POINT課題作製	前	2	50	伊藤
	情報機器の操作(h)	実務情報技術の基礎として、教職に就いた際の実際の教育や校務にとって必要な情報機器の操作を習得する。ことを目標とした。授業の概要は、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本的な操作方法を習得する。応用として、ワープロソフトでは、用途に合わせた文書のレイアウト、表と図形の作成よりワープロソフトの機能と特徴を理解し実務に即した文書作成を通して知識と技能を習得する。表計算ソフトでは、グラフの作成、各関数を利用して成績処理を行うことにより表計算ソフトの知識と技能を習得する。プレゼンテーションソフトでは近年学校では、いろいろな視聴覚機器やコンピュータ、テレビ会議システムなどニューメディアが導入され、授業の運営に積極的に活用されている。本授業では、学校現場の教育担当者として、これらの視聴覚教育メディアを利用した模擬授業や、プレゼンテーションを活用した教授・表現技法を身につけることを目的に、プレゼンテーションソフトを用いて電子スライド教材を作成する。課題作品は、個人制作とした。演習のテキストとして「ひと目でわかるPC講座Microsoft Office 2003 Editions」を用いた。授業の形式は、コンピュータを使用した演習で、後期集中講義期間12.12.-12.28に情報処理センター端末室3で実施した。評価の方法は、課題提出を義務づけ、課題作品の評価と実習態度を重視して評価した。受講した学生の構成は、情報機器の操作hでは、3回生1名、2回生1名の計2名であった。最終日の3時限、4時限にそれぞれ作成した電子スライド教材を用い模擬授業を行い本講義を終了した。	後	2	2	石川
教職	中等数学科教育Ⅱ	VisualBasicを利用し教材作成	前	2	50	渡邊
	中等数学科教育Ⅲ	幾何領域を含む数学の総合学習教材についてレポートを作成する。 (1)マイ紙コップの制作 (2)写真による測量 (3)自動車の内輪差・外輪差 その他	後	2	44	柳本
	教育実践基礎演習	PGIによるプレゼンテーションの特性を生かした授業計画と教材作成	後	2	70	松村
	総合演習(B4)	Cygwinを利用し簡単なプログラムを動かした。データを作りgnuplotで図と作成した。Illustratorで概念図を作成する方法を学んだ。「Webカメラで放射線を見る」というテーマで大学院生の教育実践の演習を行なった。WaveSpectraというソフトで音のスペクトルを観察した。	後	2	20	高嶋
産業技術	システム論Ⅰ(情報理論)	信号処理、システムに関する基礎理論	前	2	13	飯間
	アルゴリズムとデータ構造	大多数の受講生が、C言語によるプログラミングを未習得であったため、C言語によるプログラミングを基礎から学びながら、ソートの各種アルゴリズムを、C言語で実現できるまでにした。最後には、ソートだけでなく、いろいろな目的で利用されるアルゴリズムの計算量の評価方法と、種々のデータ構造をC言語でどのように実現するのかを、解説した。	前	2	8	佐竹
	製図	機械製図、組立図	前	2	18	関根
	情報構造とデータベース	1~7コマ目 My SQLとACCESSを用いたリレーショナルデータベースの設計と構築 1コマ目 My SQLとPrologの準備としてUNIXの操作方法 2~5コマ目 My SQLを用いたリレーショナルデータベースの設計と構築 6~7コマ目 ACCESSを用いたリレーショナルデータベースの設計と構築 8~10コマ目 Prologを用いた述語理論に基づくデータベースの設計と構築 11~13コマ目 データベース一般の理論と技術に関する講義	後	2	39	佐竹
	情報基礎実験	Aliceというソフトを使ってオブジェクト指向プログラミングの考え方を理解するための演習を行なった。	後	1	10	多田
	数学	電子計算機	以下の講義と演習を行なった。 1~4コマ目 EXCELの復習 5コマ目以降 EXCEL VBAを用いて、マクロの記録方法、編集方法、作成方法、実行方法を学び、徐々に複雑な成績処理ができるようになった。 この授業により、プログラミングの初歩の能力と、校務にICTを活用する能力の両方を身に付けさせた。	前	2	48
体育	保健体育学演習I(体育・スポーツ心理)	SPSSを使ったデータ処理の演習を行なった。卒業論文等でのデータ処理に必要な基礎を学ばせ、今後より応用的な活用ができるようになった。	前	2	6	和田
	スポーツ指導論A	ビデオのパソコンへの取り込み→分析→レポート作成を行なわせているが、IPCのパソコンではうまくいかなかった。	前	2	27	榎本
	スポーツ情報論	・データ処理に関する基礎理論 ・エクセル、SPSSを用いてデータ処理演習を行なった。	前	2	43	中
美術	コンピュータグラフィックス	主にIllustrator(端末3利用)とPhotoshop(情報処理室利用)の操作技術修得。	後	2	6	宇澤
	美術教育とコンピュータ利用	19人が受講し、全員に単位を出した。ビットマップやベクトル画像の基本を学び、パワーポイントで、音楽と統合し、一つのエンターテインメントソフトを作り上げている。本年の特色はファッションショーを扱ったもの、花が好きな蜂を食べてしまうという文学的な内容を扱ったもの、宮崎駿アニメのように使いと農村を扱ったものなど多彩であった。本学が著作権教育を行っているので、エンドロールにコピーライトを明示させることを強調している。	後	2	19	村田

科目区分	授業科目	授業内容	開講期	単位	登録者数	教員
発達障害	測定・検査法	データの種類、データ入力、データ変換 データの編集、データ集計、データの記述 統計的検定(二項検定、 χ^2 検定、t検定、分散分析) 多変量解析(因子分析) アンケートの作成、分析	後	2	2	三浦
	障害児社会調査	障害のある子どもに関する社会調査の手法を学ぶため、アンケート作成の方法とともに、統計分析の方法を学習した。SPSSを用いての統計分析やグラフ作成等を行い、卒業論文等に活用が可能になることを目指した。	前	2	3	田中(智)
理学	地学基礎実験(a)(b)	走時曲線、地球内部の速度構造、地表付近の地価構造の推定、地殻変動量を用いた地震時の断層変化の推定、岩石の年代決定等をExcelを用いて計算した。	後	2	27	谷口(慶)
	地学実験	地球内部の速度構造を推定するためシミュレーションプログラムをVisualBasicを用いて作成した。	後	2	7	谷口(慶)
	物理学基礎	◎Excelを使って和音の波形をえがく ◎音オシロ(北海道立理科教育センター)をZドライブにダウンロードし、声を入力し波形を観察 ◎50走の様子をAVIUTL99でコマ送り再生し、速度、過度九度を算出	前	2	50	沖花
家政	生活情報処理	コンピュータの基本的なしくみを確認した後、インターネットを利用した情報収集や、日本語文書作成ソフト(Microsoft Office Word2003)、表計算ソフト(Microsoft Office Excel2003)、画像処理ソフト(Adobe Photoshop Elements4.0)を利用した情報処理、プレゼンテーションソフト(MicrosoftOffice Powerpoint2003)を利用した情報発信について解説し、演習を行った。	後	2	22	延原
農業・商業・情報・工業	コンピュータと情報処理Ⅰ・プログラミングⅡ	Webに関する情報発信技術と情報検索技術を説明し、演習を行なった。最初は端末室1を使用した。XAMPPがインストールされていなかったため、端末室3を2日目から使用した。	前	2	34	飯間
	コンピュータと情報処理Ⅱ	高校情報免許の取得希望者を対象に、プログラミング経験を積む機会を提供する目的で、Cプログラミング基礎の講義と演習を行なった。具体的には、hello worldから基本データ型、演算子配列、ループなどの制御構造、関数、関数の再帰呼び出しまでの講義と演習を行なった。	後	2	30	佐竹
	マルチメディア表現と技術	・FlashによるWebアニメーション制作 ・FlashをレイアウトしたWebサイト トップページ、リンクページの制作 ・Flashナビゲーションの制作	後	2	21	渡壁
教育	教育統計学実習Ⅰ	データの統計処理の学習のためにExcelを利用した。度数分布図の作成と加工を習得した。(3回中1回のみ)最終週2回でも利用予定であったが教室利用ができなかったため講義室で行なった。	後	1	19	田中(あ)
	教育心理学実験ⅠB	SPSSで因子分析を行う手順を学習させ、また用意されたデータを用いて分析し結果を検討させた。	後	1	5	水谷
自由科目	情報メディアの活用	本講義は学校図書館司書教諭免許取得のための必修科目の一つであり、学校図書館での情報メディアの活用の現状と課題を考察し、学校の情報化に対応した今後の情報メディアの活用のあり方を考究する。また、実際に電子図書館の利用体験を演習活動に取り入れ、電子図書館の現状と課題に関しても考察する。情報メディアと著作権、個人情報の保護も解説する。 上記のうち、IPCでの演習活動を、以下の点を中心に行なった。 1. 小・中・高校の母校のWebページの発信内容の分析 2. 学校Webページの現状と課題のディスカッション 3. 図書館情報メディアの活用、OPAC、NACSIS Webcat、ERIC 4. 電子図書館の体験、(貴重図書の展示、小説の配信、電子絵本、学術論文の電子図書)	前	2	103	宮田

平成 21 年度 IPC NEWS の発行状況

平成 21 年度は、IPC NEWS No.164 (2009 年 4 月 1 日) から No.174 (2010 年 3 月 1 日) まで合計 11 回発行しました。これらのニュースでは、各月の行事予定および集中講義・公開講座の開催について利用者に知らせるとともに、計算機利用、ネットワーク利用についての様々な学内への情報提供を行なっています。

各月の主だった内容は以下の通りです。(行事予定、前月の再録は省いてあります。)

- No.164 無線 LAN のアクセスポイントが増強されます
退職・転職する教職員のメールアドレス利用延長について
入学式の映像配信について
プリンタの印刷枚数制限について
各種申請について
IPC 利用時間について
情報処理センター利用授業時間割表 (平成 21 年度前期)
- No.165 ウィルス対策ソフトのバージョンアップについて
無線 LAN のアクセスポイントが増強されました
プリンタ障害発生時の対応について
パソコンのシャットダウン確認について
本学におけるメール送受信数データ (2009 年 3 月までの集計)
本学におけるウイルス発見件数 (2009 年 3 月までの集計)
- No.166 指導員補助員募集のお知らせ
退室時のパソコンのシャットダウンについて
本学におけるメール送受信数データ (2009 年 4 月までの集計)
本学におけるウイルス発見件数 (2009 年 4 月までの集計)
- No.167 後期の端末室利用について
利用結果報告書の提出について
空き缶の分別について
本学におけるメール送受信数データ (2009 年 5 月までの集計)
本学におけるウイルス発見件数 (2009 年 5 月までの集計)
- No.168 後期の IPC 利用期間について
USB メモリの利用について
本学におけるメール送受信数データ (2009 年 7 月までの集計)
本学におけるウイルス発見件数 (2009 年 7 月までの集計)
- No.169 端末室扉の更新について
情報処理センター利用授業時間割表 (平成 21 年度後期)
- No.170 来年度授業利用調査について
USB メモリのファイルは必ずコピーを
館内の飲食禁止について
本学におけるメール送受信数データ (2009 年 9 月までの集計)
本学におけるウイルス発見件数 (2009 年 9 月までの集計)
- No.171 利用結果報告書の提出について
平成 22 年度 IPC 指導員募集のお知らせ
プリンタの利用停止について
本学におけるメール送受信数データ (2009 年 10 月までの集計)

本学におけるウィルス発見件数（2009年10月までの集計）

No.172 年度替りに伴うメールアドレスの取り扱いについて

非常勤講師のメールアドレスの取り扱いについて

IPC利用停止期間について

サーバの更新について

ウィルスにご注意ください

本学におけるメール送受信数データ（2009年11月までの集計）

本学におけるウィルス発見件数（2009年11月までの集計）

No.173 来年度授業利用申請

端末室のリニューアルを行いました

端末室のパソコンが変わります

本学におけるメール送受信数データ（2009年12月までの集計）

本学におけるウィルス発見件数（2009年12月までの集計）

No.174 IPC利用再開について

退職・転職する教職員のメールアドレス利用延長について

卒業式、入学式の映像配信について

平成 21 年度行事日誌

平成 21 年

- 4月 1日 IPC NEWS No.164 発行
- 4月 6日 入学式インターネット配信、新入生ガイダンス
- 4月 2日、6日、8日 新入生のための学内ネットワーク利用講習会
- 4月16日 富士通との定例会議
- 4月23日 4月スタッフ会議
- 5月 1日 IPC NEWS No.165 発行
- 5月19日 見学（城陽中学校 7名）
- 5月21日 富士通との定例会議
- 5月28日 5月スタッフ会議
- 6月 2日 IPC NEWS No.166 発行
- 6月11日 見学（久御山中学校 18名）
- 6月26日 国立大学法人情報系センター協議会総会（東京農工大学）
- 6月18日 富士通との定例会議
- 6月30日 6月スタッフ会議
- 7月 1日 IPC NEWS No.167 発行
- 7月 8日 見学（京都市立嘉楽中学校 32名）
- 7月23日 富士通との定例会議
- 7月30日 7月スタッフ会議
- 8月 8日 オープンキャンパス 施設見学（参加 87名）
- 8月10～14日 夏季休館
- 8月11日 見学（塔南高校 21名）
- 8月20日 富士通との定例会議
- 9月 1日 IPC NEWS No.168 発行
- 9月 3～4日 第21回情報処理センター等担当者技術研究会（熊本大学）
- 9月17日 富士通との定例会議
- 9月17日 IPC 運営委員会
- 9月25日 9月スタッフ会議
- 10月 1日 IPC NEWS No.169 発行
- 10月15日 富士通との定例会議
- 10月26日 10月スタッフ会議
- 11月 2日 IPC NEWS No.170 発行
- 11月19日 富士通との定例会議
- 11月27日 11月スタッフ会議
- 12月 1日 IPC NEWS No.171 発行
- 12月17日 富士通との定例会議
- 12月22日 12月スタッフ会議
- 12月28日～平成 22 年 2 月 冬季休館・システム更新のための休館

平成 22 年

- 1月 7日 IPC NEWS No.172 発行
- 1月21日 富士通との定例会議

1月27日 1月スタッフ会議
2月 1日 IPC NEWS No.173 発行
2月18日 富士通との定例会議
2月24日 2月スタッフ会議
3月 1日 IPC NEWS No.174 発行
3月 1日 新システムお披露目会
3月 2日 端末室利用再開
3月16日 情報ネットワーク運営委員会
3月18日 情報ネットワーク管理委員会
3月18日 富士通との定例会議
3月25日 卒業式インターネット配信
3月29日 3月スタッフ会議

IPC ワークステーション利用者一覧

(順不同, 電子メール、インターネットのみの利用及び授業受講は除く)

氏名	利用目的 (研究題目など)
佐竹 伸夫	ニューラルネットと用いた構文解析
伊藤 伸一	電子管相互作用について温度グリーン関数の計算
宮崎 充弘	可換環論

IPC 関連委員会等歴代委員

	氏名	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
運営委員会 ◎委員長 □役職指定	田岡 文夫					◎
	谷口 淳一			◎	◎	
	矢野 喜夫	◎	◎	○		
	中 比呂志	○	○			
	中峯 浩	□	□			
	榊原 典子	○	○			
	浜田 麻里	○	○			
	多田 知正		□	□	□	□
	福間 則夫			○	○	
	村田 利裕			○	○	
	水谷 宗行				○	
	平井 恭子					○
	桐木 紳					○
	田中多佳子					○
	氏名	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
運用担当者 ◎センター長 △次長	田岡 文夫					◎
	谷口 淳一			◎	◎	
	矢野 喜夫	◎	◎			
	伊藤 伸一	○	○			
	沖花 彰			○	○	○
	谷口 慶祐	○	○	○	○	
	榊原 典子	○	○			
	佐竹 伸夫	○	○	○	○	○
	村田 利裕	○	○	○	○	○
	中峯 浩	△	△			
	佐々木真理	○	○	○	○	
	中 比呂志	○	○	○	○	
	多田 知正		△	△	△	△
	延原 理恵			○	○	○
	吉江 崇			○	○	○
小松崎 敏					○	
事務局	秋山 剛志	○	○	○	○	○
	高木亜里子	○	○	○	○	○

編集後記

情報処理センターのシステムの更新が終わり、どうにか新システムが稼働を開始した。今回のシステムは前システムからかなり大きな設計変更をしたこともあり、導入初期のトラブルについてはある程度予測していたものの、実際には考えていた以上にさまざまな不具合が次々に発生し、利用者みなさんに多大なご不便をおかけすることになってしまった。ご迷惑をおかけした利用者の方々に深くおわびするとともに、問題解決に尽力いただいた関係各位に改めてお礼を申し上げます。

また今年度のミニ特集のテーマは「Apple を選ぶ理由」として、Apple の製品に関して 3 人の先生方にご寄稿いただいた。各先生の Apple に対する姿勢や思い入れはそれぞれであるが、歴史的な話や具体的な利用法など興味深い内容であった。最近ではあまりパソコンなどに興味のなさそうな人から「Mac」や「iPad」などの言葉が聞かれることもあり、ほんの数年前までは世間は Microsoft 一色だったことを考えると隔世の感がある。私が初めて Mac に触ったのはもうずいぶん前の話であるが、当時使っていた UNIX マシンと全く異なる画面と操作方法に「コンピュータがこんなに使いやすくていいのか！」と衝撃を受けたことを覚えている（当時 Windows はまだ無かった）。幸か不幸か、その後 Apple がパソコンの世界を制覇することは無く、私自身も今はすっかり Windows ユーザだが、Apple の一時の状況を思えばよくぞここまで復活してくれたと嬉しく思う。Apple と Microsoft のどちらがいいかという点にはさまざまな意見があろうが、独占状態より複数の企業がしのぎを削る状況のほうが技術の発展という面からも望ましい。情報処理センターでも今後 Apple 製品のサポートについて検討を進めていく予定である。

またこのところの Apple の躍進は、製品そのものの魅力もさることながら、「パソコンでやること」の多くがネットに移行してしまい、「Windows でしか動かないソフト」がなくてもさほど困らなくなったというのが大きな要因であると考えられる。その意味ではもはや Mac か Windows かという時代ではなくなっているのかも知れない。Windows のおかげでパソコンメーカーの違いにあまり意味がなくなったように、ネット時代では OS の違いにはあまり意味がなくなっていくだろう。今後どういう展開が訪れるのか楽しみである。

編集委員

田岡 文夫	多田 知正	沖花 彰
村田 利裕	佐竹 伸夫	延原 理恵
吉江 崇	小松崎 敏	
秋山 剛志	高木亜里子	